

# リコーダー

ソプラノ・リコーダー

アルト・リコーダー

- リコーダーは、ルネサンスからバロックの頃にかけて盛んに用いられました。
- 18世紀中頃にフラウト・トラヴェルソ（バロック・フルート）が広まると、使われる機会は急速に減少しましたが、20世紀になってから復活しました。



## リコーダーの魅力

リコーダーは息を使って音を出す楽器なので、歌に似ていると思います。演奏中は自分自身が楽器の一部になっている感じで、感情や思いがストレートに伝わる楽器です。それがリコーダーのおもしろさであり、魅力でもあります。

あんどう ゆか  
安藤由香

4～5-1

18

- ・B4の用紙で印刷してください。
- ・点線で切ると実際の大きさになります。

## ふ 吹いてみよう

ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーは管の長さや太さが異なり、同じ運指でも音が異なります。次に示した運指で音を出し、どのような関係になっているか確かめましょう。

### 運指が共通の音の例

ソプラノ

アルト

運指が共通の音

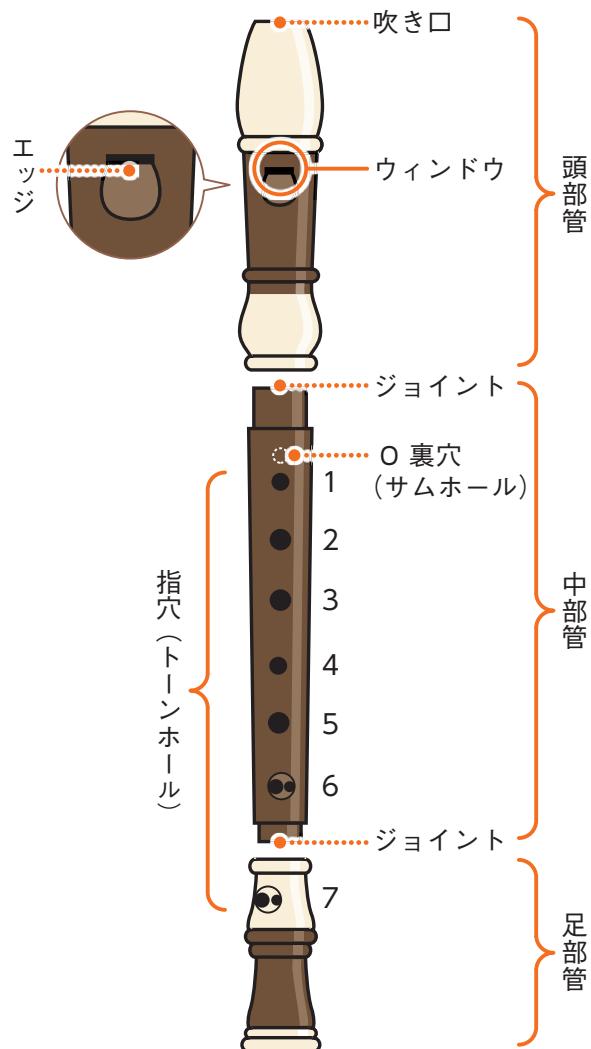
この小さな8は、実際の音（実音）が1オクターヴ高いことを表します。

4～5-2

・B4の用紙で印刷してください。

・点線で切ると実際の大きさになります。

## 各部の名称



## 指穴の番号と指番号

指穴は、次の図で示された指番号と合った指で塞ぎます。



4～5-3

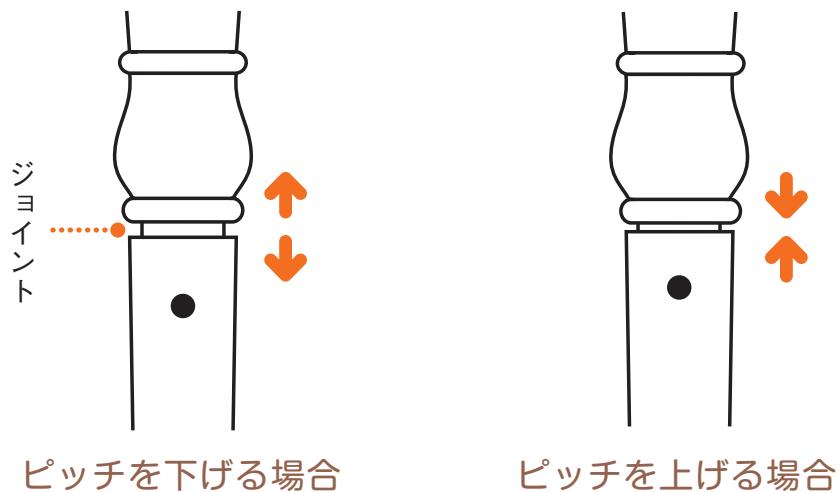
20

- ・B4の用紙で印刷してください。
- ・点線で切ると実際の大きさになります。

音合わせをすることを、チューニングといいます。リコーダーは、図のようにジョイントを抜いたり差し込んだりすると、ピッチ（音の高さ）が変わります。

リコーダーは吹き始めと、しばらく吹いて楽器が温まったときとでは、ピッチが変わることがあります。吹く前に頭部管をてのひらで包み温めておくと、チューニングがしやすくなり、音のかすれの原因となる水がつきにくくなります。

### ピッチの調整の仕方



- ・B4の用紙で印刷してください。
- ・点線で切ると実際の大きさになります。